

日時：令和4年11月25日(金)10:00～12:00

場所：ひょうご女性交流館 501 会議室

1 あいさつ（岡田次長）

今日のご多忙のところ、令和4年度食の安全安心と食育審議会「食育推進部会」にご出席いただきありがとうございます。

また、皆さまには平素から県政の推進に格別のご理解とご協力を賜っておりますこと、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。特に、9月5日に開催されました「第1回食の安全安心と食育審議会」におきましては、この度策定をいたしました第4次食育推進計画につきまして、取り組むべき課題や期待することなど様々なご意見をいただきましたこと、また、前に掲示しております食育絵手紙コンクールに際しまして、2,000を超える多数の応募作品の中から優秀な作品をご審査いただきましたこと、重ねて御礼を申し上げます。

保健医療部の最も重要な課題の一つとして取組んでいる新型コロナ対策について、第8波に入りつつあるということで、一昨日に2ヶ月ぶりに一日の感染者数が4,000人を超えるような状況になりました。これから寒くなる時期に季節性のインフルエンザが同時流行も懸念されているということで、先週の金曜日に県の対策本部会を実施いたしました。国の想定を県に当てはめると、一日の最高時は新型コロナが1万9千人、季節性のインフルエンザが1万5千人、計3万4千人が一日に罹患されるということで、その対策としましては、第7波の課題も踏まえまして発熱外来の体制強化や抗原検査キットの確保、夜間救急外来の強化をするといったような方向を定めましたので、県民の皆さまには基本的なことにはなりますが、改めて3密の回避、適切なマスクの着用、手洗い、換気など感染対策の徹底、ワクチンの積極的な接種をお願いしたいということ、もし感染した場合のために各自で検査キットや食料品、常備薬などの備蓄をお願いしたところではありますので、委員の皆さまにおかれましてもご協力のほどよろしくお願いいたします。

食育に関しましても、繰り返しにはなりますが、今年度第4次食育推進計画のスタートの年度となっております。「食で育む元気なひょうご“実践の「わ」を広げよう」をキャッチフレーズとしまして、SDGsの視点を取り入れて、子どもとその親、若い世代を中心とした健全な食生活の実践など4つの取り組みを柱として取り上げて関係機関、関係者と連携をしながらさまざまな取り組みを進めているところであります。

一つ新たな取り組みとしまして、朝食摂取率の向上に向け公民連携による、現在18社がご参画いただいている「HYOGO アサ@プロジェクト（ひょうご あさあつと ぷろじえくと）」を9月に開始いたしました。10月にキックオフイベントとしまして、兵庫高校で齋藤知事にもご参加いただいて朝食セミナーを開催したり、今日お配りしているレシピを作成するなど、県民に限らず旅行者なども含めて兵庫で朝を向かえる人たちにとって朝が素敵な時間となるような応援プロジェクトでございます。

これ以外にも、新型コロナの影響で増加しております在宅時間を活用した食育、あるいはデジタルツールを効果的に活用した情報発信の強化、また、地域や家庭での伝統的

な料理の継承などについても、目標達成に向けていろいろと取り組みを進めているところでございますが、本日は今年度の取り組み状況などもご説明させていただきまして、皆さまからご意見、ご助言等をいただきたいと考えております。2時間という限られた時間ではございますが、どうぞ忌憚のないご意見、ご助言をお願いいたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

2 議事

(永井部会長)

部会長を務めます永井です。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは次第に従いまして進めさせていただきます。最初に、「食育推進計画（第4次）を踏まえた食育推進について」事務局からよろしくお願いいたします。

(事務局)

資料1から資料2により説明

(永井部会長)

ただいま事務局より、第4次食育推進計画について、取り組みの柱に沿って順に説明がございました。

また、令和3年度のひょうご栄養・食生活実態調査結果についても県からご説明がございました。委員の皆さまには、今ご説明ございました内容につきまして、ご質問やご意見などございましたらお願いしたいと思います。

(芦田委員)

資料1-3ひょうご栄養・食生活実態調査について、以前の部会でもお伺いしたかと記憶していますが、調査対象はどうなっているのでしょうか。バイアスがかかり実態と乖離しているのではないかという気もするのですが、どうなのでしょう。

(事務局)

令和3年度のひょうご栄養・食生活実態調査に関しては、無作為で調査を実施しております。令和2年度の県民モニター調査については、確かに希望された方が対象でしたが、令和3年度の調査に関しては希望された方ではなく、地区を選定いたしまして、国民生活基礎調査の方から市町ごとに1地区ほど抽出をし、そちらの地区の方に調査をご依頼しました。回答率は約4割ぐらいです。

(芦田委員)

地区ごとに1つ選んでいるとすると、人口密集地と過疎地ですいぶん集団の特徴が変わり県の人口構成を反映してないのではないかという気がしますが、その辺はいかがですか。

(事務局)

調査の地区を選定する際に、人口構成も考慮した上で調査の客体数は選定しております。また、20歳以上の数値は年齢調整もかけさせていただいております、できる限り県の実態に近いものというところで工夫はしています。統計的に限界なところでありますので、よろしくお願いします。

(芦田委員)

資料1-2の7ページの中に減塩の話が出ています。第4次食育推進計画がスタートしたところですが、県として追加した方がいいなと思う提案です。

今、WHOが目目しているのは遊離糖類です。例えば、米に含まれているでん粉からブドウ糖ができたり、果物に含まれている果糖など、原材料に含まれている糖類ではなく、原材料以外で摂る糖類というのが、いわゆるシュガートキシティー (sugar toxicity) と全世界的に言われ出しており、砂糖が悪い、砂糖だけではなくブドウ糖、果糖、ショ糖の糖類を遊離で摂っていいのは1日ティースプーン6杯、25gまでに押さえること、と言われていています。減塩に続いて、次は糖の制限が出てくと思うので、先手を打っていくとインパクトが出てくると思います。どう思われますか。

(事務局)

砂糖業界はなかなか難しい分野だということを承知はしていますが、今おっしゃっていただいたような新しい知見や糖の摂り過ぎはすぐさま糖尿病につながるかといえば、もっと複合的な要因があるかと思えます。貴重なご意見ということで検討の方進めたいと思えます。ありがとうございます。

(芦田委員)

ぜひ、そういうのを追加項目や補足でもいいので第4次食育推進計画に入れてもらうと、国の施策より先行して動くことができると思いますので、県としては非常にいいことではないかと思えます。これは、全世界的に言われ出してきていますので、先行するのには悪くはないと私は思いました。

(永井部会長)

遊離糖類につきましては、国の方で栄養プロファイリングの作業が進んでおりまして、今世界的にフロントオブパッケージの動きがございます。例えば、遊離の糖類ですとか、脂肪酸や食塩等、そういったものを高濃度に含む食品については、食品のパッケージの後ろではなく前面に消費者の方が分かりやすいかたちで表示するという事で、日本でも食品の分類作業が進んでおります。今、いくつか論文が出てきて、栄養研究所からデータが出てきているところです。このようにパッケージの前面の表示化に向けて、動いているという情報がございます。そういったものへの啓発でもできるのではないかなど。まず実態調査が必要かもしれませんが、補足で情報を伝えさせていただきました。

他にもそれぞれの立場から、あるいは「柱」に近いところで活動されている皆さまからご質問、ご意見等がございましたらどうぞよろしくお願いいたします。

(田中委員)

我々も小学校や中学校で子どもさんに県産食品の理解が得られるよう、魚食普及に力を入れています。県の方でも給食アドバイザー、生産者との連携、体制を構築していただいているところに非常にありがたいと思い、県下全体の市町に進めていただけたらなと思います。

資料1-2の8ページ学校給食を通じた県産県消の理解促進について、10市町とは具体的にどの辺になるのか、この取り組みに県漁連も関わっていましたでしょうか。その辺も含めて、もう少し詳しくご説明していただけますとありがたいです。

(流通戦略課)

事業を活用していただいている市町を申し上げますと、姫路市、三木市、丹波篠山市、朝来市、養父市、加東市、たつの市、猪名川町、播磨町、佐用町です。

県漁連さんとの関わりについては県の取り組みでいいますと、教育委員会が給食支援センターと連携していますので、その中で今回お魚でいいますと、学校給食で県産の原材料の加工品をもっと活用していただきたいということで、例えば明石の真蛸がブランドになっておりますので、そういったものを学校給食で食べていただいて良さを知ってもらったり、食育の講義に使っていただいたり、加工品の調達において県漁連さんにもご協力していただいているのではないかと思います。

(田中委員)

今後、事業を活用する市町を増やしていく予定はあるのでしょうか。

(流通戦略課)

学校給食での県産県消使用割合を数値目標として持っておりまして、現状約30%程度ですが令和6年度までには35%までに引き上げるという目標がありますので、現状5%足りてないところなので、今後も取り組み市町を拡大していく予定です。

(田中委員)

水産の方は全面的に協力させていただきます。

(永井部会長)

このことに関しまして、小学校長会の水野委員の方から何か情報などございますでしょうか。

(水野委員)

私は播磨町の小学校におりまして、先日も和食の日でちなんだ兵庫県産ではないのですが静岡県産のお茶が1パックに10袋入ったものが全児童に配布されました。

また、先ほど蛸の話も出ましたが、から揚げになったり、播磨町は海に面していますので播磨町や明石市でとれた海苔が出たり、昨年度は神戸ビーフが出たりなど、頻繁ではないですが給食に出ます。「兵庫県でとれました」「兵庫県の方からいただいています」

という取り組みがほんとに素晴らしいと思っておりますので、ぜひ続けて欲しいなと思います。市町が手を挙げて取り組まれているのか分からないですが、10市町だけでなく広げてもらえたらと思います。たくさん恩恵を受けております。

(土井委員)

資料1-2の2ページ(3)学校における食育の推進について質問です。今、兵庫県で考えられている学校における食育の推進の課題はどのあたりにあるのかを伺ってみたいと思います。

第1回食育審議会で、会社の事業として大阪府でのプロジェクトを栄養教育の連携というところで少しお話をさせていただいたのですが、大阪府の方で課題として出てきたのが栄養教諭の数が減ってきている中で、学校の担任の先生とうまく連携をとっていく組織・連携体制が課題としてあると認識いたしました。

ここで、兵庫県ではどのあたりが課題としてあるのかと気になりましたので、お聞きしてみたいと思っております。

(教育委員会体育保健課)

資料にもあるとおり、学校教育活動全体を通じて組織的・計画的・継続的に食育を推進するという国も言っており、県でも取り組んでいます。

また、食育と言われ始めて20年近く経つのですが、小学校では最初から給食を生き教材として使っていることもありまして浸透してきています。

ただ、校長先生を主体として学校全体で取り組むということが一部の学校ではなかなかできていない。どうしても栄養教諭がいる学校は進んでいるけれども、いない学校では誰かが中心になって進めている。など、なかなか定着していかないところもあげられます。

(土井委員)

学校全体で取り組むのは難しいと私も感じております。大阪府の方でも栄養教諭の先生を限定に研修会を実施したのですが、「教科の先生や担任の先生も巻き込んだ形で研修した方がいいよね」と意見がありました。また機会があれば議論させていただければと思います。

(竹内委員)

地元は姫路市で、姫路市のPTA協議会に所属しています。姫路市では給食献立作成委員会というものがありまして、協議会から数名が代表して栄養士を含む方々で構成されている場で、学期ごとにやっているのですが、その場に出席されるお母さまやお父さまから、子どもたちが美味しかったと言っていた給食を聞いたり、ポトフや韓国の料理など色々な国の料理から世界を知り、食育に繋がるといったことで実施しています。もちろん、地産地消で県の物、例えばレンコン使った料理とかを活用させていただいております。

食育については、保護者にもう少しアプローチしてもいいのかなと思います。子ども

を学校に通わせていて、1日3食あるうちの1食を親以外のところから提供いただいていることに、もう少し保護者が興味を持つような取り組みがあれば食育がもっと広がっていくような気がすると思います。

私の子どもは2人とも中学校に通っていて色々な資料をいただくのですが、小学校までは食育活動を大々的にしていたのが、中学校に入った途端、食育していますというような授業が親目線では見えてこないです。幼稚園、小学校では給食試食会があったり、親が給食に触れることがあったのでとても良かったと思うのですが、中学校に入ると同じ給食だけれども少し距離が開いたように思うので、献立表だけを見るだけでなく、生の声が届けられるような活動ができればいいのではと思いました。

(教育委員会体育保健課)

学校での食育を進めていく上で、家庭や地域との連携も大事ですということを給食を実施している市町の教育委員会に対しては県としても指導、助言をしているところです。

また、小学校は先駆けて食育を進めていますが、中学校の食育に関しては中学校給食が最近始まったところもたくさんありますので、なかなか学校全体で取り組んでいきたいと思います。そういった課題もあり、食育ハンドブックの中学校版を令和に入ってから作成しました。中学校の中でも授業を通じた食育の取り組みであったり、地域と連携した食育の取り組み方や、家庭との連携もこうやってやっていってくださいということを示したハンドブックで、研修等に活用して中学校でも食育を推進していけるように取り組んでおりますので、またよろしくをお願いします。

(永井部会長)

私も姫路市の住民として、小学校では栄養教諭がたくさん配置されていて、栄養教諭の先生と子どもの距離も近いですが、中学校は給食センター方式で栄養教諭の数が圧倒的に少ないです。そういった市町も多いのかなと思っております。中学校給食も始まったばかりで、食育は今からというところだと思いますが、良いハンドブックが出来ておりますので、ぜひ教職員の方に研修を行っていただいて、中学校からのやせ問題であるとか、スポーツを始められたりとか第二次成長も始まって成長も著しいですし、また、中学校給食で米飯がたくさん残されているという学校もあるということをお聞きしておりますので、ぜひとも中学校でも今後食育が進んでいけばいいな、というふうに私も思います。貴重なご意見ありがとうございました。

(芦田委員)

今の竹内委員のご意見に関しては、県として色々考えないといけないところだと思います。第4次食育推進計画の基本方針の一つは「すべての県民が世代に応じた食育活動をすすめ、元気な地域をつくる」となっており、食育というのは子どもだけでなく、その親も考えないといけなく、小学校から中学校へのギャップ、中学校から高校へのギャップ、そこから上の世代へのギャップが出てきますので、途切れることなく食育が進められる何か施策を県として考えてもらいたいというのが意見です。

(水野委員)

一つ紹介ですが、播磨東地区の学校給食食育協議会という組織が小・中学校にありまして、今年度会長をしております。2週間ほど前に、今年度の研究発表会を3年ぶりに人が集まって中学校で開催しました。小野市の中学校の食育の取り組みが本当にすばらしくて、中学校もこんなことができるのではないかと、という内容でした。

まず、栄養教諭だけが食育をやるのではなく、小学校、中学校の全教育活動の中でどの職員も視点を考えたら横断的に食育というものはできる、そういう視点で2年間取り組んできました、というような発表でした。学校だけでなく、小野市の教育委員会のバックアップも非常にあったので、そういうバックアップがあることを発信してもらえたたら、播磨町の教育委員会もバックアップしてくれるかなと思ったりしました。

その時は、まさに食育という家庭科の授業と、中学1年生の英語と中学3年生の学級活動の3つの授業についてでした。学級活動では、地震や津波などの災害が起きたら3日、あるいは2週間ほど水が止まる、火が使えない、電気が止まってしまうことを想定して、家でどのようなものがどれくらいあったら家族が食べることができ命を守れるか、その家族にミルクアレルギーの赤ちゃんがいます、卵アレルギーのお母さんもいます、年齢が高いおじいちゃん、おばあちゃんは噛むのに力がありません、などいくつかの条件があり、グループ毎に考えるという授業でした。中学1年生の英語は、小学校でもやりますが会話に果物や野菜を入れ、食べ物に関して英語でやりとりする内容でした。家庭科の授業は、お友達が朝、野菜ジュースしか飲まない子、おにぎり1個しか食べない子、パン1枚しか食べない子がいれば、その友達にどんな食事をしたら朝食メニューとして充実しているか、バランスがどうかを考え、教えてあげる授業でした。

研究冊子の中に今までの取り組みがあり、数学では暑い時期に数式を使って、砂糖と塩と水の割合を考え、熱中症対策水を実際に作るという授業をやっておられていました。どの教科でも何ができるかを考えないといけないなと改めて思いました。

特に中学校教員は、食育は家庭科の先生、栄養教諭に任せていたらいいと考えている方が多いが、「それは違うね」という発信がありましたので、目からうろこという感じでした。でもそれは一教諭だけのアイデアだけではとても実践できなくて、やはり学校や市町のバックアップがあり、実践できたらいいなと思いましたが、ご紹介させていただきました。

(永井部会長)

貴重な情報をいただきましてありがとうございます。私も1週間前に佐用町にある小学校の食育研究大会に行かせていただきましたが、あらゆる教科と連動させながら食育をされていました。食に関する指導の手引きを作られた、文部科学省の食育調査官の方が講師で来られていたのですが、「食事が大事ということだけでなく食は楽しいということも教えて欲しい」それから、「地域の食を知ることだけではなく地域の食を好きになる子どもを育ててください」という2つのことを教えていただきました。それをあらゆる、道徳、家庭科、総合的な学習といった教科を横断的に、また学年が進むごとに深まっていくようなかたちで取り組みをされていて、素晴らしいなと思うと同時に、今後、色んな学校に広まっていけばいいな、と思いながら拝見させていただいたところで

ございます。

(代理出席 兵庫県いずみ会 山下副会長)

私が担当しているところは、東播磨ブロック地域の明石市です。

明石市は野菜などの生産物が豊富で大変恵まれています。その材料を使ったレシピ集を作りました。貧血対策など、色々な状況に応じたテーマに沿ったレシピを作り、J A、ふぁ～みん SHOP などに置いていただいたり、こども食堂のメニューに使っていただけるようにレシピ集を提供しております。

明石市の保育所や幼稚園、こども園など、年間 30～40 箇所ですべて食育教室と題しまして、「こういうものを食べたら元気になるよ」、「緑の濃い野菜を食べて元気になろう」と人形劇で食育教室をやっております。

それから、4～5年前から高校生の料理教室も始めました。親元を離れて大学へ行くときに、地元を離れると今まで食べられていたものが食べられなくなったり、毎日のことなので外食にばかり頼っていたら偏りますし、自分の好きなものばかり食べてしまうので、高校生に料理教室などを行っています。高校では授業の計画があり、なかなか入りにくい状況ではありますが、1年に1回時間をいただいてやっています。最近ではコロナでレシピ集の提供のみになっていますが、コロナ前は、お買い物の段階から分からない人も多いので近くのふぁ～みん SHOP でお野菜の見分け方など、お買い物指導もやっていました。お家では勉強ばかりでお買い物をしたり、お料理をしたりすることが少ないようでして、役に立っていると思います。

(橋本委員)

栄養士会では様々な事業を展開させていただいております。大学に入るまでにいかに食の力を身につけていくのかというのが非常に大きな問題かと思っております。大学に入ってしまうと、あらゆるものが手に入る時代ですし、どう食べていったらいいのかということの関心よりも、違う方面での関心が非常に高いのだらうなと思います。

そこで、大学生へのアプローチの中でも SNS を活用して朝食の情報を流していこうというような取り組みをしているところですが、やはり、若い人にどうアプローチしていくのかということに関しては、新しい情報の発信の仕方、それからチャンネルというものを活用していかないといけないのかなというふうに思っております。そういった点でも、栄養士会でインスタグラムをやってみようかなというように、新しいところへ手を出していくことも必要かなと思っております。

またもう一つ、フレイル予防の方では栄養ケアステーションというものを全県下に広めていこうということで、県下 10 圏域に最低でも一つの栄養ケアステーションを立ち上げていこうと、一昨年からはモデル事業等も展開しながらやっているところですが、やはり大きな問題は人材の育成ということかと思っております。いかに人材を育成していくのか、兵庫県下にも潜在的な管理栄養士、栄養士が沢山いると思うのです。そういう人々をいかに活用して食育に取り組んでもらえるのか、そういうところが兵庫県栄養士会として一つの課題であると考えておりますので、先ほどの学校給食においてもそうですけども、学校の栄養教諭の質の向上という点も非常に重要だと思っております。そこ

で、兵庫県栄養士会の会員増加にも今取り組んでいるところです。

一つお聞きしたと思っていたところは子ども食堂に関して、兵庫県では開設の時に立ち上げの経費をいただいています、その後の運営に関しての中でのネットワークであったり、子ども食堂を運営している人達の集まりの会というようなことがあるのかどうか。明石市などは市が助成をしているこども食堂もあり、そこは市ですので統括したかたちで会が運営されているというようなことがあるようですけども、県が助成しているようなところについては、そういう仕組みがあるのか教えていただければと思います。

(事務局)

こども食堂に関しては、現時点では県が運営の立ち上げ時に補助をやっていることは事実ですが、継続的などという部分については県としての財政的な支援はやっていないと伺っています。担当課の地域福祉課が本日、欠席ということになっていますので事務局の知っている範囲での回答になりますけれども、こども食堂の代表者などが集まられて定期的にネットワーク会議というものは開催されているようです。かつて参加させていただいて、そこで食育や食品の衛生的なところのお話などをさせていただきました。そのこども食堂のネットワークの中には、こども食堂の代表者の方だけではなく、いわゆる、フードバンクのような食を供給されている事業者さんも参加されて定期的に開催されているようです。

(芦田委員)

こども食堂のことはこの部会でも過去に何度か議論があったかと思います。今の事務局からの回答からすると、全然進展していないところだと思いますので、もう少し考えてもらいたいなと思いました。

私はこども食堂のことで地域福祉課に聞いたかったのは、「ふるさと兵庫寄付金」のことについて、これは返礼品が出ない条件では兵庫県民は寄付できますか。ふるさと納税はその地域の住民は無理だったかと思います。ふるさと寄付金は1万円以上の寄付で施設券、金額によっては返礼品が出るということで、ふるさと納税のような仕組みですけども、県民は寄付できるものかどうか。返礼品は県民は除くとなっているので、返礼品が出ない条件であれば県民は寄付できるものかどうかを聞いてみたいです。でないと、他府県から寄付をするのは難しいと思います。この辺を増やしていけば、橋本委員がおっしゃられた運営の部分の資金が出来てくるのではと思いました。県としてはいかがでしょうか。

ちなみに、神戸大学は管理栄養士養成施設ではありませんが、准教授が管理栄養士の免許を持っているので食育の授業をしてもらっています。今、育児休暇中なので私が食育の授業を3回ほどやっています。大学1年生170人に、「朝ごはん食べてきましたか」と毎回聞きます。私の授業に関しては、授業中にご飯を食べてもいいことにしていて、朝食べてくる子もいますが、授業中に食べていた学生が段々減ってきますし、感想や意見を聞いていても、食育に興味を持っている学生がたくさんいます。それを上手く利用していけばいいかなと思います。

一方で、栄養士会にお願いしたいことがあります。非常勤で管理栄養士の授業を担当

しているのですが、そこでいつも学生に言うのが、「管理栄養士は資格を取るまでが大変だけれどもそこで終わりではないんだよ。情報をアップデートしていかないと使いものにならないよ。だから最新の情報や知識を持っておきなさい。」と教育しています。そういう資格を取った後の育成に取り組んでもらいたいなと思っています。

(橋本委員)

芦田先生のおっしゃる通りで、資格を取った後の方が非常に重要だと認識しております。兵庫県栄養士会も、日本栄養士会もそうですけれども、生涯教育制度をしておりますし、それから、会員向けの研修も対面でできるようになっています。病院に就職したら病院のことは分かっているけれども、他のことは分かっていないというのが結構ありますので、幅広く知識を持っていただくということで研修会をやっております。今後もしっかりと、その辺に取り組んでいきたいと思っています。また、ご助言いただければと思います。

(永井部会長)

管理栄養士免許が26万人交付されているということです。また、直近の国勢調査では、働いている栄養士、管理栄養士は11万人ですから、免許を持ってご家庭にいる人への再教育も大事だなとお話を聞きながら思いました。管理栄養士は更新制ではございませんので、芦田先生のおっしゃることもごもつとも、卒業後も勉強をしていただいで、地域で活躍していただくということが大事だと思います。

(芦田委員)

管理栄養士ではないですが一つご参考までに、薬剤師の関係で、神戸薬科大学に薬剤師の生涯教育コースがあり、卒業した者に対して認証制度を設けておられ、それを受けていくかたちで講演会をやっておられます。それに対して、評価員の評価を受けるということをやっておられ、管理栄養士にも同じようなことが言えるのではないかと思います。

(永井部会長)

リカレント教育は課題ですのでコツコツとはやってはいるのですが、ご意見を参考にさせていただきます。

(事務局)

先ほどのこども食堂の関係で補足ですけれども、2～3日ほど前に国の方で、いわゆるコロナ禍で経済的に困難になった方も多であろうということで、こども食堂で共食を進めるところに対して、運営支援をしてはどうかという補正予算の方が成立しています。それに対して、各市町の方がこども食堂の補助等で使うか使わないか、というようなことを今後、要望調査を行っていきながら、運営面においても仕組みを検討していきたいところで情報提供させていただきます。

(永井部会長)

情報提供ありがとうございます。燃料費、食材費が高騰する中で、運営が大変だということをよくニュースで見聞きしておりますので、ランニングコストを抑える支援があればありがたいのかなと思っております。

それでは、ご説明の中で、「後で」と言っておられました「HYOGO アサ@プロジェクト(ひょうご あさあつとぷろじえくと)」、こちらの方をご説明いただければと思います。

(事務局)

資料3により説明

(永井部会長)

事務局からの説明でした。委員の先生方からアサ@に関して何かご意見、ご質問などございませんか。

(竹内委員)

私は今日初めてこれを知りました。ちなみに兵庫県 PTA 協議会の方もホームページを持っておりまして、リンクを貼らせていただくのは可能ですか。

(事務局)

ぜひお願いします。

(竹内委員)

早速、事務局に伝えて貼らせていただきます。他の市町の協議会がホームページを持っているか分からないのですが、姫路市は姫路市 PTA 協議会が持っていますので、姫路市でも貼らせていただこうと思います。これで少しでも朝ごはんの摂取率が高くなり、個人的な意見ですけども、食べることは生きることということで、子どもたちの1日の活動も原点が朝にあるっていうことを、保護者の方にも少しでも興味を持っていただけるように広めていきたいと思います。

(芦田委員)

ここの趣旨に賛同する企業、団体というのは民間の企業でないためでしょうか。非営利の団体でもよいのか、また、アサ@に賛同すればいくらか補助金が出るというようなプロジェクトでしょうか。

(事務局)

この事業がスタートしたところでありまして、今ここに名を連ねておられるのは、兵庫県と地域包括連携協定を結んでおられる企業です。今後、連携のできる企業であったり、民間団体であったりというのはどんどん増やしていきたいということ、本プロジェクトを中心に取組まれている地域振興課から伺っておりますので、ご意見の方をお

伝えさせていただきます。

(芦田委員)

参画されている企業に田中委員の県漁連も入れていただいたら、朝の魚というのは和食に繋がってくるのでよいかと思いました。

(田中委員)

協賛金か何か必要ですか。

(事務局)

例えば、はばタンチャレンジは大塚製薬さんとセブンイレブンさんの方でプロジェクトの組み立てをしていただいて、県からこれをするのに100万円、500万円の費用をお渡ししているものではございません。公民連携の中で取り組みを進めているものになります。企業さまの方にとっても、県が進めるSDGsであったり、公民連携というところと連動して取り組むことで地域振興、地域貢献をしているという企業メリットにもなるという、そこに賛同していただいた企業とコラボしているという立て付けになっています。

(田中委員)

もし県漁連が参画していたら、味の素さんのパンフレットに描かれているおにぎりに海苔を巻いています。先ほど水野委員が播磨町で美味しい海苔があつてと言ってくさっていたので、ぜひ海苔を入れたいですね。

(事務局)

次に味の素さんがそれを作成するときには、「海苔付き」ということを申し伝えます。

(永井部会長)

走り出したばかりのプロジェクトですので、まだよちよち歩きだと思います。また、今後立派な大人に成長するように私達も応援したいと思いますし、それぞれの大学でリンクを貼らせていただいて学生に周知して、いろんな投稿もできるのですかね、今後、機能が増えれば活用させていただきたいです。

(事務局)

立ち上がって2か月弱くらいのプロジェクトですので、今後どう育てていくか、そして兵庫で朝を大切に、楽しいっていう県民さんを増やしていくかというところですので、ぜひご協力の方よろしく願いいたします。

(永井部会長)

今後、著名人であるとか有名なインフルエンサーの県民さんが参加して下さって、これだけいい取り組みですので、広がっていくことを期待しております。

委員の方々には、活発なご意見大変ありがとうございました。それでは続きまして、

兵庫食育月間の取り組み状況を事務局よりご説明をお願いいたします。

(事務局)

資料4により説明

資料4-2について、農林漁業祭で「あなたがやってみたい食育はなあに？」というアンケートをブース来場者に行いました。第4次食育推進計画のキャッチフレーズになっている3つの「わ」について、ご自身だったらどの「わ」に最も関心があるか、または取り組んでいきたいと思われるか、あるいは取り組み中であるところにシールを貼っていただきました。委員の皆さまでしたら、和食文化の和、人の輪、環境の環のどの「わ」にシールを付けられるか、その理由なども少し教えていただけますと大変嬉しく思います。

(田中委員)

和食のところに貼りたいところですけども、環境の環にします。食品ロスに加えて、私たちは海の環境のところに疑問があります。先日の海づくり大会で出た兵庫県のお弁当がとても評価が高くて、水産関係者からも好評をいただきました。兵庫県の食材は海も山もありとても豊富です。改めてこれから育てていくお子さん達に知っていただいて、誇れる兵庫県だと教育の場でもやっていただけたらと思います。

(土井委員)

人の輪を大事にしたいと個人的には考えました。自分自身が食育に興味を持ち始めたきっかけでもあったのが、好きな人と食卓を囲んでご飯を食べることの楽しさに気付いたり、そこで自分が救われたという経験があるので、その大切さをいうところも食育を通して伝えていきたいなと思っているので、人の輪にしました。

(芦田委員)

環境の環にします。やはり食料自給率が低い日本において、どうするかということを考えないといけないです。第4次食育推進計画の中にある農林水産マップのように兵庫県は農林水産業に長けた県になりうるはずです。世界的に過去の歴史をみると、農林水産業が発展しないところは成長がなく、今、先進国でこれだけ食品自給率が低いのは日本だけですから、それを兵庫県で打破していくという意味で選びました。

(橋本委員)

環境の環もとても大事なことだと思いますけど、私は人の輪に入りたいと思います。環境問題であっても和食のことであっても人と食事をする中でそういう話題が出て、それが食育に繋がっていくのだと思いますので、そこが1番の原点かなと思っています。

(代理出席 兵庫県いずみ会 山下副会長)

私は環境の環です。今、明石の蛸が全然とれなくなっているというのが気になります。たこ飯を作る蛸が非常に高くなっていたり、手にも入らなくなっています。海が

綺麗すぎても汚れていてもいけないということで気になります。

(竹内委員)

非常に悩みましたが人の輪です。この絵手紙コンクールもご飯を食べている時の顔がみんな笑顔になっています。やはりそこが原点で、このご飯どうやって作られているのか、この食材どうやって作られているのか、というような会話が食卓に弾むと、環境の環というところにも繋がり、個人的なことですけど、私はお魚が大好きで、海のことにも目を向けられて和食も考えられるのかなと思います。住んでいるところが姫路市の山間部なのですが、海が豊かになるためには山が豊かでないと川の水は山から流れていきますので、川を大事にする、山を大事にすることで、海が豊かになり海の生き物たちも豊富になるのではないかなと思っているので、全てに目を向けて繋がるのが、まずは人かなと思いました。

(水野委員)

私は小学校に勤めています。個人的な意見ではなく仕事の立場から考えると、和食文化の和と思います。私は食べるのが大好き校長だと発信していると、子どもたちが休み時間に色々話をしに来てくれます。給食の出汁は昆布とカツオでとり、みそ汁の出汁は煮干しでとり、私でも家ではそんな食材を使ってないようなものを食べさせてもらっています。子どもたちに「朝ご飯何食べた」と聞きますと、「今日はおにぎりやってん。めっちゃ美味しかってん」、「朝からお母さんおにぎり握って焼いてくれたんやで」「レンチンやで」など、そういう話をしてくれます。「菓子パンと牛乳やった」「プリンとカステラだった」など、バランスよく食事を摂っている子どももいるとは思いますが、そういう食事が多く、それを子どもたちは美味しい、楽しんでいるという現状を聞くと、給食だけでも頑張らないといけないと思うのですが、やはり保護者さんへの啓発とか、もっともっと和食のことを伝えていかないといけないと考えています。小学校の6年間と中学校の3年間の給食で、子どもたちに味覚を覚えてくれたらいいなとそんなふうに思いまして和食の和を選びました。

(永井部会長)

私は人の輪に1票入れさせていただきます。やはり人が基本かなということと、学校では黙食ということで、食べることの楽しさが損なわれていたり、あるいは経済、健康格差で取り残された方々も気になります。全ての人がハッピーになれるような食育をしていかないといけないなというふうに、今日、委員の皆さんのお話を聞いて改めて感じました。たくさんの貴重なご意見ありがとうございました。

(事務局)

永井部会長さま、それから委員の皆さまには、長時間にわたりまして熱心にご討議いただきましてどうもありがとうございました。第4次食育推進計画も始まったばかりで、これから5年間正念場の年になります。大変貴重な意見を頂戴いたしました。また、検討を進めてまいりたいと思います。

それでは、これもちまして食の安全安心と食育審議会「食育推進部会」を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

● 後日確認内容（地域福祉課）

(1) 9ページ「こども食堂」について、県ではこども食堂開設時の立ち上げ経費を助成しているが、継続的などという部分については県としての財政的な支援はやっていないと伺っている。

→ 「子ども食堂」は、運営収支及びスタッフの確保を含めて、継続的な運営を目指して開設されていると認識しており、運営については、助成等を基本的なベースにすると継続は難しいと認識している。

しかしながら、突発的な事案である物価高騰により運営に支障が出るのを防ぐことは必要であると考えていることから、R4.6月～R5年3月末まで物価高騰分を助成する事業を行っている。

(2) 9ページ「ふるさとひょうご寄付金」について、返礼品が出ない条件であれば、兵庫県民は寄付できるのか。この寄付ができれば、子ども食堂の運営部分にかかる資金調達ができるのではないか。

→ 兵庫県民も寄付は可能である（返礼品は対象外）。

R1～R4.12月までの「子ども食堂応援プロジェクト」に対する、ふるさとひょうご寄付金のうち約70%（件数ベース）は兵庫県民からの寄付である。